2019 年度 ITEC 年次報告書

ITEC Annual Report 2019

同志社大学

技術・企業・国際競争力研究センター(ITEC)

同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター(ITEC)
2019 年度年次報告書

目次

１．技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）について …… 2

２．センター長挨拶 …… 3

３．構成員一覧 …… 5

４．2019 年度の主な活動 …… 8

５．2019 年度研究プロジェクト

5.1　プロジェクト１　「自動車の革新的技術の社会的インパクト」…… 10

5.2　プロジェクト３　「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」…… 11

5.3　プロジェクト４　「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」…… 13

６．ITEC セミナー開催 …… 15

７．イベント・トピックス

7.1　ITEC 研究者サロン 第 1 回共同研究アイデア交換会 …… 19

7.2　ITEC 研究者サロン 第 2 回共同研究アイデア交換会 …… 19

7.3　オランダ視察団来訪 …… 20

7.4　研究者対象セミナー …… 20

８．研究成果物

8.1　ワーキングペーパー …… 21

8.2　論文・投稿 …… 21

8.3　研究発表・講演 …… 21

１．技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）について

ITEC の研究は、３つの目標を持っています。

第 1 の目標は、新しい科学技術を、将来の人類社会の発展に結びつけるための社会の仕組みを議論する、未来社会志向型社会科学研究の推進です。第 2 の目標は、理工系研究と社会科学系研究を融合させる為の、プラットフォームとしての役割の推進です。第 3 の目標は、現代科学技術に対する社会的知見・教養の普及・浸透を狙いとする、21 世紀型科学・技術リベラルアーツ教育への貢献です。

ITEC は、この目標を実現するため、さまざまな研究機関と目標や研究リソースを共有し、学内外、国内外に開かれた組織（Openness）として運用しています。また、その成果は、学術的に優れた（Excellence）ものであることに留まらず、社会との関連性（Relevance）を可能な限り追求し、公共政策の策定や産業活動に貢献していくことを目指しています。そして、企業や行政との連携を強化し、企業ならびに産業の活性化に貢献していくことを重視しています。

より詳しい情報は、下記ホームページでご覧いただけます。

https://itec.doshisha.ac.jp/

About ITEC (Institute for Technology, Enterprise and Competitiveness)

ITEC research has three objectives.

The first is the promotion of social sciences research oriented towards future society that discusses the societal mechanisms to connect new science and technology to the progress of future human society. The second is the promotion of the Institute's role as a platform that brings together research in the field of science and technology with research in the field of social sciences and humanities. The third is the contribution to the 21st century-style science and technology liberal arts education that aims to spread and permeate society's knowledge, culture and judgement in modern science and technology.

ITEC, to fulfill these objectives, operates an organization that shares its objectives and research resources with various research institutions and is open to those inside and outside the university, as well as those in Japan and abroad. Furthermore, we aim to pursue not only excellence in academia with our achievements, but also relevance in society, through contributions to public policy planning and industrial activities. In addition, we place great importance on strengthening cooperation with companies and the government, and contributing to the revitalization of companies and industries.

For further information, please visit the ITEC website:
https://itec.doshisha.ac.jp/en/index.html

２．センター長挨拶

技術公共政策領域の学術的発展を目指して

技術・企業・国際競争力研究センター長
三好 博昭（みよし ひろあき）

「技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC : Institute for Technology, Enterprise and Competitiveness）」は、2016 年度より、2003 年の発足当時から蓄積してきた技術経営分野の成果・蓄積を踏襲しつつ、技術公共政策領域を新たな重点的研究と位置づけ、情報工学・エネルギー工学等の理工系領域の研究者と、法学・哲学・社会学・経済学等の人文社会科学系領域の研究者の融合組織で、新しい技術に対応した社会のあり方を探求する研究センターへと転換させてまいりました。

最新の科学技術、例えばビッグ・データ処理技術や AI の進展は、人類社会の発展に大きく寄与することが期待されている一方で、人間と機械との関係、人間と人間の関係、さらには人の人としての生き様にまで大きな影響を及ぼすことが予想されています。そうした技術を効果的に活用するためには、技術の発展を展望し、その活用と制御の仕組みを、理工系領域の研究者と共に議論していく社会科学研究が必要不可欠であると考えます。こうした問題意識の下、ITEC は、１）未来社会志向型社会科学研究の推進、２）理工系研究と社会科学系研究を融合させるプラットフォームとしての役割、３）21 世紀型科学・技術リベラルアーツ教育への貢献の３つを、柱として活動しております。

2019 年度は、新しい理念・体制の 4 年目として、様々な活動を本格化させた年といえます。研究プロジェクトについては、「自動車の革新的技術の社会的インパクト」、「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」、「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」という３つのテーマを柱とし、それに関心を持つ学内外の研究者との共同研究を推進しています。

「自動車の革新的技術の社会的インパクト」については、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第２期／自動運転（システムとサービスの拡張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」を、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構との共同研究と推進し、またこの研究プロジェクトの一環として、自動運転技術の日独共同研究「社会経済インパクト評価」を推進いたしました。

「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」と「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」は、合わせて 41 回の経済実験を実施し、その結果を分析・研究してジャーナル投稿への準備を進めています。そして、これらのプロジェクトは、ともに 2019 年度に科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽））を獲得しています。このことは、社会全体がこれらのプロジェクトの将来性に期待していることを示していると言えるでしょう。また、学内外の多くの研究者・大学院生に経済実験の考え方や手法を知ってもらうため、「経済実験勉強会」を開催しました。

こうした研究プロジェクトの活動以外に、ITEC の産官学連携並びに文理融合のプラットフォーム機能としての活動として、学内外の研究者を招聘したセミナーを開催し、数多くの方々にご参加頂きました。さらに、ITEC 研究者サロンとして「共同研究アイディア交換会」を 2 回実施し、外部若手研究者とディスカッションするなど、若手研究者の養成、および領域横断的な共同研究の促進にも務めました。この活動は、2020 年度に本格化させていく所存です。

このような 2019 年度の活動の成果は、ITEC に関わって下さった関係機関の皆様方のご支援によるものです。こころより感謝の意を表するとともに、こうした成果をさらに発展させ、その蓄積を、同志社大学を担う次世代の研究者に引き継いで参る所存であります。

同志社大学
技術・企業・国際競争力研究センター(ITEC)
センター長　　三好 博昭

３．構成員一覧

ITEC は、兼担研究員、客員教授、嘱託研究員（共同研究員・院生研究員）で構成されている。兼担研究員は同志社大学の専任教員、客員教授・嘱託研究員（共同研究員）は、他の大学や研究機関、企業から招聘した研究者・専門家・実務家であり、嘱託研究員（院生研究員）は同志社大学の大学院生である。

ITEC の運営に関する事柄は、研究開発推進機構との協議の下、マネジメント・コミッティで決定される。このマネジメント・コミッティは、センター長と、センター長が本学教員の中から委嘱する若干名で構成されている。

ITEC での職名	氏名	本務機関・役職（2018 年時点）
センター長、 兼担研究員、マネジメント･コミッティ	三好 博昭	同志社大学 政策学部 教授
ディレクター、 兼担研究員、マネジメント･コミッティ	田口 聡志	同志社大学 商学部 教授
副センター長、 兼担研究員、マネジメント･コミッティ	山本 達司	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	柿本 昭人	同志社大学 政策学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	川上 敏和	同志社大学 政策学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	川本 哲郎	同志社大学 法学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	佐藤 健哉	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	松村 恵理子	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員、マネジメント･コミッティ	八木 匡	同志社大学 経済学部 教授
兼担研究員	上田 雅弘	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員	瓜生原 葉子	同志社大学 商学部 准教授
兼担研究員	金田 重郎	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員	河瀬 彰宏	同志社大学 文化情報学部 助教
兼担研究員	下原 勝憲	同志社大学 理工学部 教授
兼担研究員	田中 希穂	同志社大学 免許資格課程センター 准教授
兼担研究員	辻村 元男	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員	内藤 徹	同志社大学 商学部 教授
兼担研究員	廣安 知之	同志社大学 生命医科学部 教授
兼担研究員	舩津 浩司	同志社大学 法学部 教授
兼担研究員	武蔵 勝宏	同志社大学 政策学部 教授
客員教授	David Cope	ケンブリッジ大学 クレア・ホール校 ファウンデーションフェロー

客員教授	Douglas J. Crawford-Brown	ノースキャロライナ大学 チャペルヒル校 名誉教授
客員教授	Tim Minshall	ケンブリッジ大学 工学部 教授
客員教授	D. Hugh Whittaker	オックスフォード大学 ニッサン・インステ ィテュート 教授
客員教授	恩田 勲	株式会社 GTM 総研 代表取締役社長・公認会計士・税理士
客員教授	北山 忍	ミシガン大学 心理学部 教授
客員教授	小平 信因	公益財団法人トヨタ財団 会長
客員教授	西條 辰義	総合地球環境学研究所 特任教授・プログラムディレクター
客員教授	孫 林	上海社会科学院 部門経済研究所 副研究員
客員教授	手嶋 茂晴	名古屋大学 未来社会創造機構 知能化・システム統合研究部門 特任教授
客員教授	永井 正夫	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事・研究所長
客員教授	西口 泰夫	Gyrfalcon Technology Japan 株式会社 代表取締役会長兼 CEO
客員教授	花岡 達也	国立環境研究所 社会環境システム研究セン ター 主任研究員
嘱託研究員（共同研究員）	上野 康治	上野企画室 代表・プランナー
嘱託研究員（共同研究員）	内村 孝彦	特定非営利活動法人 ITS Japan 常務理事
嘱託研究員（共同研究員）	小川 一仁	関西大学 社会学部 教授
嘱託研究員（共同研究員）	小野坂 優子	スタヴァンゲル大学 ビジネススクール 教授
嘱託研究員（共同研究員）	恩田 学	GTM 税理士法人 代表社員・税理士
嘱託研究員（共同研究員）	片岡 孝夫	早稲田大学 商学部 教授
嘱託研究員（共同研究員）	上條 良夫	高知工科大学 マネジメント学部 教授
嘱託研究員（共同研究員）	坂井 康一	国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所長
嘱託研究員（共同研究員）	塩津 ゆりか	京都産業大学 経済学部 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	高橋 達	城西大学 経済学部 助教
嘱託研究員（共同研究員）	高橋 正哉	高橋公認会計士事務所 所長・公認会計士・税理士

嘱託研究員（共同研究員）	橋本 誠志	徳島文理大学 総合政策学部 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	廣瀬 喜貴	大阪市立大学大学院経営学研究科 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	本田 康二郎	金沢医科大学 一般教育機構 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	三船 恒裕	高知工科大学 マネジメント学部 准教授
嘱託研究員（共同研究員）	三輪 一統	大阪大学大学院経済学研究科 講師
嘱託研究員（院生研究員）	桑内 美早	同志社大学大学院商学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	澤田 雄介	同志社大学大学院商学研究科
嘱託研究員（院生研究員）	谷口 咲子	同志社大学大学院総合政策科学研究科
アシスタントディレクター	髙山 博	事務スタッフ
研究支援員	立川 貴子	事務スタッフ

4．2019 年度の主な活動

年	月	日	活　動　内　容
2019	4 月	17 日	オランダ視察団来訪
		25 日 26 日	経済実験：Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究
	5 月	5 日	ITEC 研究者サロン 第 1 回共同研究アイデア交換会
		10 日	ITEC セミナー（株式会社 GTM 総研 代表取締役社長・公認会計士・税理士 恩田勲 氏）
		17 日	ITEC セミナー（内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 自動運転 Program Director 葛巻清吾 氏）
		28 日	研究者対象セミナー（九州大学大学院工学研究院 馬奈木俊介 教授）
	6 月	14 日	ITEC セミナー（南山大学国際教養学部 神崎宣次 教授）
	7 月	17 日	ITECセミナー(名古屋大学大学院情報学研究科 久木田水生 准教授)
		12 日 18 日	経済実験：実験の大規模化に対応するための大学横断型参加者プールの設立に向けて
		30 日	経済実験研究会
	8 月	2 日	ITEC 研究者サロン 第 2 回共同研究アイデア交換会 【テーマ】「AI×ヒト：先端技術の社会受容性」 【講師】江間有沙 特任講師 （東京大学 未来ビジョン研究センター） 本田康二郎 准教授 （金沢医科大学一般教育機構）
	9 月	18 日	第 1 回 ITEC マネジメントコミッティ会議

	10 月	15 日	ITEC セミナー（金沢医科大学一般教育機構 本田康二郎 准教授）
		17 日	経済実験：実験の大規模化に対応するための大学横断型参加者プールの設立に向けて
	11 月	7 日	ITEC セミナー（大阪大学大学院経済学研究科 松村真宏 教授）
	12 月	5 日 16 日	経済実験：知の活用と探索に対する管理会計の役割の研究
2020	1 月	9 日 22 日 23 日 24 日	経済実験：知の活用と探索に対する管理会計の役割の研究
		31 日	ITEC セミナー（東京大学 生産技術研究所 大口敬 教授）

５．2019 年度研究プロジェクト

5.1　プロジェクト１「自動車の革新的技術の社会的インパクト」

プロジェクト・マネージャー

三好 博昭（ITEC センター長）

プロジェクト内容

Google 社のドライバーレスカーの公道実験が開始されて以降、自動走行システムに世界の注目が集まっている。日本でも、悲惨な交通事故撲滅の切り札、高齢者など交通弱者への移動手段の提供、バス・トラック運転手の人手不足と高齢化への対応等との観点から、自動運転に対する社会的関心は非常に高い。本研究は、この自動走行システムをはじめとする自動車の革新的技術の社会的インパクト、技術の社会普及を促進するための政策、新しい技術を活かす社会の仕組み等を検討する。

１）研究活動

本年度は、昨年度に開始した内閣府（管理法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構委託）「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第 2 期／自動運転（システムとサービスの拡張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」を本格的に稼働させた。また、この研究プロジェクトの一環として実施する日独共同研究「社会経済インパクト評価」について、第 1 回会合をベルリンで開催し、共同研究をスタートさせた。

① 論文

- 三好博昭、「自動運転の社会経済インパクト」、株式会社日本能率協会総合研究所『MDB 技術予測レポート』、pp. 1～12、2019 年 6 月
- 三好博昭、「自動運転の経済学的考察」、日本学術協力財団『学術の動向』2020 年 5 月号特集「自動車の自動運転の実現と社会デザイン」（近刊）

② 学会発表・会議報告等

- 三好博昭、「自動車の自動運転の推進と社会的課題について」、日本学術会議 学術フォーラム セッション 3「完全自動運転をめぐる人文・社会科学における取組」の「自動運転の経済学的考察」、日本学術会議講堂、2019 年 9 月

２）教育・社会還元活動

セミナー開催

開催日	タイトル	講演者（敬称略）
2019 年 5 月 17 日	SIP 自動運転―自動運転実現に向けた産官学連携の取組み―	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動運転 Program Director 葛巻 清吾 氏
2019 年 6 月 14 日	技術の社会的受容性と倫理的受容可能性	南山大学国際教養学部 神崎 宣次 教授
2019 年 7 月 17 日	人工知能のバイアス	名古屋大学大学院情報学研究科 久木田 水生 准教授
2020 年 1 月 31 日	自動運転技術を活用した近未来交通社会	東京大学 生産技術研究所 大口 敬 教授

３）競争的外部資金

- 内閣府（管理法人：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構委託）「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第 2 期／自動運転（システムとサービスの張）／自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究」（2018 年度～2020 年度）

5.2 プロジェクト３「AI と人にやさしい未来社会の構築：フューチャー・デザインによるアプローチ」

プロジェクト・マネージャー

田口 聡志（ITEC ディレクター）

プロジェクト内容

AI を中心とするテクノロジーの進展に見合う新しい経済社会制度の設計は、喫緊の課題であるといえるが、現状では、その点に関する議論が未だ成熟しているとは言い難い。そこで本プロジェクトでは、経済実験、特にフューチャー・デザインという社会科学では比較的新しい方法論により、人間と AI が共存する未来の社会をどのようにデザインするか、領域横

断的に検討する。最終的には、現実の経済制度設計、ひいては未来の地球を見据えた新たな知見を得ることを大きな目標とする。

1）研究活動

2019 年度は、科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽）、2019 年 4 月～2022 年 3 月）を獲得するとともに、学会報告 2 回をおこない、また、全体を展望する論文を 2 編公表した。

① 論文

- 田口聡志、「AI 時代の監査報酬に係るサーベイ実験：「社会の目」を変えるには」、日本監査研究学会課題別研究部会編『テクノロジーの進化と監査』第 20 章、pp. 221～240、2019 年 8 月
- 田口聡志、「AI 時代の会計・監査に係る実証研究の位置づけに係る再整理：「会計に求められる新たな教養」を見据えて」、『同志社商学』第 71 巻第 6 号、2020 年 3 月

② 学会発表・会議報告等

- 田口聡志、「Disclosure is a gift that encourages trust and reciprocity」、日本経営分析学会・日本ディスクロージャー研究学会第 36 回年次大会 2019 学会賞受賞記念講演（招待）、早稲田大学早稲田キャンパス、2019 年 7 月
- 田口聡志、「AI 監査と不正の多様性：監査人の責任に係る経済実験」、日本会計研究学会第 78 回全国大会、神戸国際会議場・神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、2019 年 9 月

2）教育・社会還元活動

セミナー開催

開催日	タイトル	講演者
2019 年 5 月 28 日	人工知能がもたらす経済・社会的影響	九州大学大学院工学研究院 馬奈木 俊介 教授
2019 年 10 月 15 日	身体保守主義の可能性～トランスヒューマニズムの倫理学～	[第一部：講演] 金沢医科大学一般教育機構 本田 康二郎 准教授 [第二部：対談] 本田 康二郎 准教授 瓜生原 葉子 准教授 田口 聡志 教授

5.3　プロジェクト４「Fintech の進展と新しいビジネスモデルのあり方に関する実験社会科学研究」

プロジェクト・マネージャー

山本 達司（ITEC 副センター長）

プロジェクト内容

金融危機や IT 技術の発展を背景に、近年 Fintech と呼ばれる IoT・ビッグデータ・ブロックチェーン・人工知能などの技術を使った革新的な金融サービスが登場している。Fintech が現在カバーする領域は決済・送金、家計管理、企業会計、資産運用、資金調達、融資、保険等多岐に渡り、さらに単なる業務の IT 化を超え、資金の流れや産業構造、ひいては価値創造の手法そのものを大きく変えるような社会的インパクトをもたらしつつある。そのインパクトを予測し、技術の進展に見合う新しい経済制度やビジネスのあり方を設計することは喫緊の課題であるといえ、特に現実社会への制度・政策実装の段階では、その効果を事前に如何に予測するかが重要な鍵となる。しかしながら、既存の方法論では極めて困難が伴う。そこで本研究では、「経済実験」により、そのような問題を克服し、Fintech の進展に見合う新しい経済制度やビジネスのあり方を検討する。

１）研究活動

2019 年 4 月より、本プロジェクトを本格的にスタートし、科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽）、2019 年 4 月～2022 年 3 月）を取得した。

①　論文

- 田口聡志、「複式簿記の特質に係る行動経済学的分析：AI 時代の会計利益の「危機」を巡って」、『同志社商学』第 71 巻第 3 号、pp. 38～56、2019 年 11 月
- 山本達司、「ビットコインの潜在的リスク」、『同志社商学』第 71 巻第 5 号、pp. 115～128、2020 年 3 月
- 坂上学、田口聡志、上枝正幸、廣瀬喜貴、「実験会計研究の未来」、『イノベーション・マネジメント』第 17 巻、pp. 21～37、2020 年 3 月

②　学会発表・会議報告等

- 田口聡志、「実験会計学の新たな可能性を巡って：これまでとこれから」、日本経営分析学会・日本ディスクロージャー研究学会第 36 回年次大会 2019 ディスクロージャー領域シンポジウム「実験会計学の未来」理事会企画セッション（招待）、早稲田大学早稲田キャンパス、2019 年 7 月

- Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose and Satoshi Taguchi, “An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions: A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting”, Concurrent Session "Fairness and Accountability", 2019 American Accounting Association Annual Meeting, San Francisco, USA, August 2019.
- Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose and Satoshi Taguchi, “An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions: A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting”, 日本会計研究学会第 78 回全国大会、神戸国際会議場・神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、2019 年 9 月
- 山本達司、「ビットコインとブロックチェーン―会計的側面からの検討―」、同志社会計人会冬季研修会、同志社大学、2020 年 2 月

２）教育・社会還元活動

セミナー開催

開催日	タイトル	講演者
2019 年 5 月 10 日	【Integration】ITEC に期待すること～昭和の会計士の独り言～	GTM グループ代表 株式会社 GTM 総研 代表取締役社長・公認会計士・税理士 恩田 勲 氏

６．ITEC セミナー開催

ITEC セミナーは、1）研究の質の向上、2）メンバー間並びに関連分野の専門家との連携強化、3）研究成果の社会還元を目的に、ITEC の研究分野に関連する専門家を講師としてお招きし、講演と討論を行う形態で開催するものである。

2019 年度は様々なテーマについて、合計 7 回の ITEC セミナーを開催し、延べ 350 名の研究者、専門家、学生、一般市民の参加を得た。（他 2 回、新型コロナウィルス感染防止のため、延期）

セミナーの具体的内容は以下の通りである。**（広報用フライヤーから引用）**

① 論題：「【Integration】ITEC に期待すること
～昭和の会計士の独り言～」

講師：GTM グループ代表　株式会社 GTM 総研 代表取締役社長
（公認会計士・税理士）　恩田 勲 氏

日時：2019 年 5 月 10 日（金）15:00～16:30

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB211

概要：私たちは其々の「知識」をベースに判断し、行動しています。また人によってこの「知識」は千差万別で、例えば「理系出身者と文系出身者の発想の違い、欧米人（外国人）と日本人の考え方の違い、職業や地位、居住地・・」等々の違いが云われています。

人の判断の基礎は「知識」にあるので、様々な「知識」を身に着けている方が良いに決まっています。ただ「この問題をこう処置する」、あるいは「こうあるべきだ」と判断したという、原理原則を体験的に理解している人の「見識ある」経験談は、より有益な「知識」であると言えます。

ITEC の活動目標の一つが、様々な「知識」を【Integration】して研究し、「見識」を発信することにあると思いますので、お越しの皆様に私の拙い実体験ではありますが、45 年を超える公認会計士・税理士としての経験をお話しさせていただきたいと思います。ただ私の経験は昔の話でありますので、現時点でそのまま通用するとは思いません。あくまでも「昭和の会計士の独り言」として、「知識」の一つとしてお聞きいただければと思います。

皆様の経験値と【Integration】することで、そこから何かが生まれる一助となることを期待しております。

② 論題：「SIP 自動運転―自動運転実現に向けた産官学連携の取組み―」

講師：内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動運転 Program Director　葛巻 清吾 氏

日時：2019 年 5 月 17 日（金）15:00～16:30

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB211

概要：現在、自動運転の実現に向け自動車会社や IT 企業が熾烈な競争を行う一方で、内閣府プロジェクトである戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）では、共通の課題に対して産官学連携による取り組みが進んでいる。

本講演では、130 年前に起きた自動車というイノベーションの歴史を振り返りつつ、今起きている自動運転という新たなイノベーションへの自動車会社そして日本政府の取組みを紹介する。本講演を通して聴講者の皆さんが、自動運転技術を社会課題の解決のためにどう活用すべきかについて考えるきっかけとなることを期待したい。

③ 論題：「技術の社会的受容性と倫理的受容可能性」

講師：南山大学国際教養学部　神崎 宣次 教授

日時：2019 年 6 月 14 日（金）14:55～16:25

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB212

概要：私の専門である倫理学の分野では、生命倫理学をはじめとする応用倫理学というかたちで、さまざまな先端技術 emerging technology に関連して生じうる倫理問題が検討されてきました。同様に、法や政策や経済などの観点からも、先端技術が社会に受け入れられるか、あるいはその条件がどのようなものかが論じられています。

現在は人工知能技術がそうした学際的な議論の対象となっているといえるでしょう。具体例としては、内閣府による「人間中心の AI 社会原則（案）」などがあります。このような議論において、法や政策や経済ほど直接的な影響を社会に与えないように思われる倫理の観点からの議論は、どう貢献する、あるいはどういう意味を持ちうるのでしょうか。今回のセミナーではこのような観点から、過去の「先端技術」に関する議論も踏まえつつ、人工知能技術に関する現在の議論について検討したいと思います。

④ 論題：「人工知能のバイアス」

講師：名古屋大学大学院情報学研究科　久木田 水生 准教授

日時：2019 年 7 月 17 日（水）13:10～14:40

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB201

概要：ビッグデータや機械学習の発展は、これまでは機械に遂行させるのが困難あるいは不可能だった様々なタスクを自動化することに成功してきた。その中には人間の能力や適性を評価する、労働を管理するといったタスクもある。このようなタスクを遂行するシステム・アプリケーションは人間以上に正確、客観的、公平であると宣伝されるのが常である。しかしそのように宣伝される正確さ、客観性、公平さはしばしば幻想にすぎず、実際にはバイアスを持ったアンフェアなものである。本発表ではいかにして人工知能の判断にバイアスが入り込むか、それが社会にどのような影響を与えているか（与えうるか）を論じる。

⑤ 論題：「身体保守主義の可能性～トランスヒューマニズムの倫理学～」

【第一部：講演】

講師：金沢医科大学 一般教育機構 / ITEC 共同研究員

本田 康二郎 准教授

日時：2019 年 10 月 15 日（火）13:10～14:40

場所：今出川校地　寒梅館 2 階 KMB212

概要：人型ロボット技術の発展と、BMI（ブレイン・マシン・インターフェイス）技術の発展の行きつく先には、身体機能の一部を機械に代替させる道が拓けている。そして、バイオ・ナノ・ロボットの各技術や人工知能技術を駆使して身体をアップグレードすることを推奨する「トランスヒューマニズム」の考え方が、技術発展の進捗に合わせるように、じわじわと日本にも影響を与え始めている。このような中で、我々は身体を自由に改造するような社会を目指すべきなのか、議論する時期にきたのかもしれない。本講演では、身体改造に対して保守的な立場をとりながら、身体改造が内包するリスクについて、現象学的な知見に基づいて検討してみたい。

【第二部：対談】

本田 康二郎 准教授

瓜生原 葉子 准教授（同志社大学 商学部/ ITEC 兼担研究員）

田口 聡志 教授（同志社大学 商学部/ ITEC ディレクター）

⑥ 論題：「仕掛学：人を動かすアイデアのつくり方」

講師：大阪大学大学院経済学研究科　松村 真宏 教授

日時：2019 年 11 月 7 日（木）15:00～16:30

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB211

概要：本講演では「仕掛学」という学問についてご紹介します。仕掛学では、人の行動を変化させる「きっかけ」になるものを「仕掛け」と呼んでいます。別の言い方をすると、仕掛けは「行動の選択肢を増やすもの」と言うこともできます。選択肢なので行動変容を強制するものではありません。仕掛けに興味をもった人が、自ら進んで行動を変えたくなる、そのような仕掛けを研究対象にしています。本講演では、仕掛学の事例紹介、仕掛学の考え方、仕掛学の周辺領域など、仕掛学にまつわるアレコレについてご紹介します。

⑦ 論題：「自動運転技術を活用した近未来交通社会」

講師：東京大学生産技術研究所　大口 敬 教授

日時：2020 年 1 月 31 日（金）15:30～17:00

場所：今出川校地 寒梅館 2 階 KMB213

概要：自動運転技術を活用するとはどういうことか、今の乗用車、貨物車、バスが自動運転になることで交通安全性は飛躍的に高まると考えられていますが、それ以外にも交通渋滞は改善するのか、色々な議論があります。それだけでなく、交通弱者を救ったり、待ったなしの社会課題改善への貢献も期待されています。自動運転技術によってもたらされるであろう近未来の交通社会を考え、その有効性を効果的に・迅速に実現するとともに、負の側面を最小限に抑えるために考えるべき視座を論じます。

７．イベント・トピックス

7.1　ITEC 研究者サロン 第 1 回共同研究アイデア交換会

日時： 5 月 5 日（日）15:00～18:00
場所： 今出川校地 寒梅館 6 階大会議室
目的： ITEC 研究者の相互啓発と、今後の共同研究テーマの発掘

分野の異なる研究員同士が各々の専門領域の情報を交換して、お互いに知的好奇心を触発し合い、文理融合・学際的な共同研究テーマを見つけ出し、本格的な研究へと育てていこうとする試みの第一歩となった。

互いの研究を 5 分のプレゼンテーションで簡潔に紹介し合うことから始め、その内容を受けて、研究分野のできるだけかけ離れた研究員を組み合わせて 3 つのグループを作り、共同研究テーマを探るブレインストーミングを行った。各グループのリーダーが話題に上がった内容を発表し、その後各自が全体を通したまとめと感想を発表した。共同研究テーマの発掘の可能性を大いに感じる会となった。

7.2　ITEC 研究者サロン 第 2 回共同研究アイデア交換会

日時： 8 月 2 日（金）10:00～17:00
場所： 今出川校地 寒梅館 3 階セミナールーム
テーマ：「AI×ヒト：先端技術の社会受容性」
講師： 江間 有沙 氏（東京大学 未来ビジョン研究センター 特任講師）
　　本田 康二郎 氏（金沢医科大学 一般教育機構 准教授 / ITEC 共同研究員）

ITEC の文理融合・複合領域の研究を更に推し進めるためのひとつの材料として、今回は「AI×ヒト：先端技術の社会受容性」をテーマに選び、外部の若手研究者を講師とした講演をもとにディスカッションをおこなうとともに、異なる専門分野の研究者が、政策・法律・医療・倫理など様々な角度から AI 技術や未来社会について議論した。また、ワークショップやグループワークを通して、更に活発な意見交換がなされ、目標とする研究成果に向けて、また一歩前進することができた。

今後も上記のような学内外の研究者との知的交流を継続し、ITEC の研究課題について具体的に議論を重ね、ユニークで質の高い研究成果を生み出していきたい。

7.3　オランダ視察団来訪

日時：　4 月 17 日（水）11:00～12:30
場所：　今出川校地 寒梅館 6 階大会議室

オランダ北ホラント州の 15 名の研究者の訪問を受けた。

視察団の代表である Jeannet van Arum - Weggemans 氏によれば、視察団の責務の 1 つは、首都や地方の道路ネットワークを計画し運営することであり、Smart Mobility の強化プログラムを運営し、交通信号とのリアルタイム・コミュニケーション等の路車協調システムで、オランダを先導することにある。メルセデス、トヨタ、日産からの車両を使った先行プロジェクトも実施している。彼らのボードはオランダの選挙民から選ばれており、政治的使命から、視察団は経済的・社会的インパクトにも関心をもっている。SIP-adus Workshop 2018 の招待講演者であり、視察団の科学アドバイザーであるデルフト工科大学の Bart van Arem 教授は、社会経済インパクト・アセスメントは、Smart Mobility のシステムやサービスの効率的な普及に大変重要であると述べている。この視察団の目的は、その経験を共有し、日本での Smart Mobility の発展を学ぶことであった。

ITEC センター長の三好博昭、マネジメントコミッティの川上敏和との会談で、多くの有益な情報が交換された。

7.4　研究者対象セミナー

日時：　2019 年 5 月 28 日（火）13:00～15:00
場所：　今出川校地 寒梅館 2 階 KMB212
テーマ：「人工知能がもたらす経済・社会的影響」

『人工知能の経済学―暮らし・働き方・社会はどう変わるのか―』（ミネルヴァ書房）や『新国富論―新たな経済指標で地方創生』（岩波書店）の編著者として著名な経済学者である馬奈木 俊介教授（九州大学大学院工学研究院・九州大学都市研究センター長）をお招きして、ITEC との研究交流会、および研究者を対象としたセミナーを開催した。

セミナーでは、「人工知能がもたらす経済・社会的影響」というテーマで、AI と人間がどのように共存しうるか、またそこにおけるビジネス・経済の果たす役割について、学内外の研究者・大学院生を交えて活発なディスカッションをおこなった。

今回のような学外の先生方との知的交流を今後も継続していくことで、ITEC の大きなミッションのひとつである「AI 未来社会のあり方の検討」を推進し、研究・教育面で更に多くの貢献をしていきたい。

８．研究成果物

8.1　ワーキングペーパー

ITEC ワーキングペーパーは、ITEC が推進する研究プロジェクト及び、関連する研究者の研究成果を、ホームページにて発信するものである。
https://itec.doshisha.ac.jp/research/results/working_paper.html

8.2　論文・投稿

- 三好博昭、「自動運転の社会経済インパクト」、株式会社日本能率協会総合研究所『MDB 技術予測レポート』、pp. 1～12、2019 年 6 月
- 田口聡志、「AI 時代の監査報酬に係るサーベイ実験：「社会の目」を変えるには」、日本監査研究学会課題別研究部会編『テクノロジーの進化と監査』第 20 章、pp. 221～240、2019 年 8 月
- 田口聡志、「複式簿記の特質に係る行動経済学的分析：AI 時代の会計利益の「危機」を巡って」、『同志社商学』第 71 巻第 3 号、pp. 38～56、2019 年 11 月
- 山本達司、「ビットコインの潜在的リスク」、『同志社商学』第 71 巻第 5 号、pp. 115～128、2020 年 3 月
- 田口聡志、「AI 時代の会計・監査に係る実証研究の位置づけに係る再整理：「会計に求められる新たな教養」を見据えて」、『同志社商学』第 71 巻第 6 号、2020 年 3 月
- 坂上学、田口聡志、上枝正幸、廣瀬喜貴、「実験会計研究の未来」、『イノベーション・マネジメント』第 17 巻、pp. 21～37、2020 年 3 月
- 三好博昭、「自動運転の経済学的考察」、日本学術協力財団『学術の動向』2020 年 5 月号特集「自動車の自動運転の実現と社会デザイン」（近刊）

8.3　研究発表・講演

- 田口聡志、「Disclosure is a gift that encourages trust and reciprocity」、日本経営分析学会・日本ディスクロージャー研究学会第 36 回年次大会 2019 学会賞受賞記念講演（招待）、早稲田大学早稲田キャンパス、2019 年 7 月
- 田口聡志、「実験会計学の新たな可能性を巡って：これまでとこれから」、日本経営分析学会・日本ディスクロージャー研究学会第 36 回年次大会 2019 ディスクロージャー領域シンポジウム「実験会計学の未来」理事会企画セッション（招待）、早稲田大学早稲田キャンパス、2019 年 7 月

- Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose and Satoshi Taguchi, “An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions: A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting”, Concurrent Session "Fairness and Accountability", 2019 American Accounting Association Annual Meeting, San Francisco, USA, August 2019.
- 三好博昭、「自動車の自動運転の推進と社会的課題について」、日本学術会議 学術フォーラム セッション 3「完全自動運転をめぐる人文・社会科学における取組」の「自動運転の経済学的考察」、日本学術会議講堂、2019 年 9 月
- 田口聡志、「AI 監査と不正の多様性：監査人の責任に係る経済実験」、日本会計研究学会第 78 回全国大会、神戸国際会議場・神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、2019 年 9 月
- Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose and Satoshi Taguchi, “An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions: A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting”,日本会計研究学会第 78 回全国大会、神戸国際会議場・神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、2019 年 9 月
- 山本達司、「ビットコインとブロックチェーン―会計的側面からの検討―」、同志社会計人会冬季研修会、同志社大学、2020 年 2 月

同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター（ITEC）

〒602-0023 京都市上京区御所八幡町 103 寒梅館 3 階
E-mail: rc-itec@mail.doshisha.ac.jp
TEL: 075-251-3779 / FAX: 075-251-3139

2020 年 4 月